大正十年(第三種郵便物認可)　昭和十四年二月十日　[金曜日]　夕刊新聞　第五千四百四十四號　[一]

或る支那風景

吉田璋也

第一景

私は支那の田舎町の菓子屋に立寄つた。模様を押し出し赤と綠や彩色した菓子を口吟むでゐる。

店には並んでゐる。奥の部屋からコトトン、コトトンと一つの律調が聞えて來る。私は暗い部屋から音のする部屋を覗いた。天窓から射し込む光が大きな石臼を浮かしてゐる。兩眼をふさがれた一匹の驢馬が靜に〳〵と廻らぬ速度で廻り續けてゐる。部屋の一隅に長く。その跡を三匹の犬が走つてゐる。

壁にある楊柳の並木を越えては何も見えない東の空

警備隊の前には沼がある。沼の岸には汚ない黒い豚が五六匹の仔豚につきまとはれて餌を漁つてゐる。沼の中の井戸だけある小島も一つある。天窓から射し込む光が大きな石臼を浮かしてゐる。兩眼をふさがれた一匹の驢馬が靜に〳〵と廻らぬ速度で廻り續けてゐる。部屋の一隅に長く。その跡を三匹の犬が走

平局俳黎會　一月句會(互選句集)

○初風の入江に海鳥群れ浮ぶ　青風
○碑に映ゆる娘等　春着の明るさよ　秋明
○初風の艶麗やう俘び來ぬ　清一
○子の希ひ潤ませて樂しき春着かな　同人
○水鳥も白うみせ神社初風ぎぬ　同人
○この年は春着を買はで銃後守る　松露
○鮮ふ人の袂も輕うき春着かな　同人

い箱がある。側に一人の少つた。驢馬をひいて來て男年が壁に凭れて胴子をつけの子が杭に繋いだ。廣場のては足を動かしてゐる。長凝は黄い土塀と土の家であし箱の中で篩が同じ調子でる。赤い着物の女の子が土滑る。ふるひについてゐる塀を廻つて家へ走り込だ。枠に依め込まれた何枚かのその塀の側は壁になつてゐ一文錢もコトトンコトトンるのか緣の張つた帽子をかの音に伴奏してゐる。少年ぶり、腰に棒を吊つた巡警は私を見て微笑だ。案内をが急ぎ足に過ぎた。藍色のした白髪の老人も微笑た私着物を着た二人の支那人がお念に少年が可愛く思はれ春氣さうにゆつくり馬を拂た。「少年！少年！一錢進上いて通る。

『私は一枚の銅貨を與へやう』少年はまた壁際に沼の中の小さい寺から鐘が戻つてコトトンコトトンと鳴つた。くいに繋がれてゐる驢馬が異樣な聲でなき立てた。驢馬は何事もなかつたやうに靜に廻つてゐる。

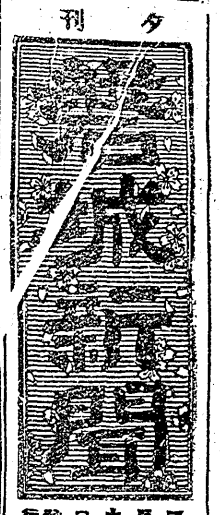
第二景

黒い煉瓦を城壁のやうに過ぐ積み上げた民家の屋根も日の丸の旗が翻つてゐるこの田舍町の日本の警備隊であゝ滿洲の黄昏である。驢馬を慰める兵隊達は屋上の上に這ひ上つて、城

天氣豫報

小名濱測候所調
今晩も明日も北西の風晴

夕刊



二月九日發行

定價　一ヶ月金五拾錢　(郵稅共金六拾錢)
廣告料金　(一號活字)一行金九拾錢　(二號活字)一行金六拾錢　(三號活字)一行金四拾錢
發行所　碧城新聞合資會社　福島縣碧城町十字路
印刷人　鈴木勇　福島縣碧城町十字路
印刷所　碧城新聞合資會社　福島縣碧城町十字路
電話　(ダイヤルイン)碧城五大四五番　交換臺(ダイヤルイン)碧城五大四五番
(日曜祭日翌日休刊)
東京販賣店　東京銀座一ノ六ノ五ノ五八番

根本産婦人科

平市南町　電三四

お前なんかに、ほんとに人を戀するつて味がわかるもんか。苦しさが、わかつてたまるもんか！」

と、男のやうに怒鳴りつけてから、一人になつて、ほろ〳〵と涙を流すのだ。

實際、その姿は三五郎の目にも意外に映る。

あの意地つ張の姐御らしさし招いて、おのれの家くないと、……この男は他へ匿まつた。それが御門專無く思よのだが、彼女は、藏だつたのである。いつも烈しい氣性に包んでがつしりとした體格、利人には隱してゐる裸の小情かぬ氣の眉、すつきり通つ鳥のやうに、動きやすい傷た鼻筋なり、淺黒い顏立ち付き易い、可哀さうな自分なり、戀にも功名にも燃えの心を見まもつて、さめやすい青年だ。

その人の名が、御門專藏敢ない夢が消えやうとする

擊事件(大正二)

唁小野縣議喪六
男忠一君
殊靈　小野務平

温和篤實夙馳名
刮目人皆待大成
恨聲才髭少天壽
藝窗業半隔幽明

○

春もまだ早き頃かも溪川の凍る下ゆく水のかそけさ　松崎隆三

講談

恩讐無道

久我莊多郎

(24)　香川三十代齋

天の卷

落武者(八)

自分自身、不思議でならないのだ。

どうして斯うまで、御門專藏がこはしいのか？——それだ。

たつた一度逢つたばかりで、それもほんの暫く、同席したといふに過ぎないのに、これまでに心が動くといふことが、自分の胸のうちでありながら、自分わからないのである。

あの晩は、雨催ひのどんより曇つた晩だつた。家にひとり、所在なく茶の間にゐると、表で驅がしい人聲なのだ。誰かわたゞしく路地へ駈け込んで來たのだぎよつとした。

さそりの三五郎が役人に追はれて逃げて來たのでないかと思つた。とつさに立上つて出てみると、三五郎にもなく見知らぬ侍だこちらはつとしたが、その侍はそこが袋露地であると知つて、引返しもせらか、うろたへてゐる。助りる氣になつた。

どうせ官軍兵に追はれて「姐御は、どうなすつたんだ。二十五にもなつて、今更惚れたはれの騒ぎでもありますまい」

三五郎が、よく陰口をきし、また、柄になく意見にまかり出。

そんな時、彼女。

「なに言つてやがるんだ。

と聞いただけで、何となくぼつとして。理由はない。さうだ。戀に、理由や理屈はない筋である。

（あたしや、こんな夜の稼業の女で、眞法な暮しは出來ないが、あの人はお侍、立派なお方なのだ。とてもあたしなんか……）

さう思つて、自分の戀を諦めやうとする。

諦められない

戀に、理由や理窟はないのだから……。

會津へ行つたらしい——といふ。

御門專藏を恩ふ、女賊の月の輪お樂はその夜のうちに旅仕度をして、不承無承の三五郎を引きずるやうにしてこの栃木の宿まで來たのである。

そして、平常から口の重い方でないらしい宿の女中から、ちえと同じに、專藏しい人の危難を聞かされて蒼くなつた。

天氣豫報

今晩も明日も北西の風晴

夕刊

二月九日發行

定價　一ヶ月金五拾錢　(郵稅共金六拾錢)
廣告料金　(一號活字)一行金九拾錢　(二號活字)一行金六拾錢　(三號活字)一行金四拾錢
發行所　碧城新聞合資會社　福島縣碧城町十字路
印刷人　鈴木勇　福島縣碧城町十字路
印刷所　碧城新聞合資會社　福島縣碧城町十字路
電話　(ダイヤルイン)碧城五大四五番　交換臺(ダイヤルイン)碧城五大四五番
(日曜祭日翌日休刊)
東京販賣店　東京銀座一ノ六ノ五ノ五八番

第一線の慰問品ニハ

見不知羊羹と潮の華

平市五丁目　泉屋菓子店　電話六六八

重田眼科

平驛前通り　元貯蓄銀行跡
眼科一般　眼鏡檢定
醫師　重田景治
平市田町一番地

御婚禮御着附

パーマネント　ウエーブ
洋和結髪　オゾン美顏術
御染髪洗毛

美爪術電話　六七八營業所　五二五自宅

平市驛前　水野化粧院

故障の起らぬ

ラヂオの原口

擧つてラヂオ　揃つてラヂオ…國防
ラヂオは最非——

専門店へ

原口無線電機株式會社代理店
古山電氣商會
平市二丁目（警察署通り）
電話(呼出) 166

外科、内臓外科　院長　安齋徹
エツキス光線科
新設　産婦人科　醫學士　黒澤廣
平市田町

入院隨意　安齋醫院　電話四七五番

國民精神總動員……
日本國民・必見の書……
内閣情報部發行
寫眞週報
(1部10セン)
…ます居して致取次お…
(電3)　西村藥局　(平2)

吸入用酸素

純度99%

關内藥局

電話四〇番

ハカリ　スマ　モノサシ
體重計　體溫器　寒暖計
秤ノ取緒　垂糸・修繕致シマス。

産婦人科

井坂醫院
平市田町　電五五九

平土産

米屋の味最中

平市驛前通り
最中專門店　米屋

電話五九二番

に變りました
食事　喫茶　飲酒場　ねたを

レストラン　サロン

喫茶

平市銀座街

磐城の御みやげ品

名物　靈峰羊かん(名産柿煉)
姉妹品
磐城耶馬溪……美山羊羹
同七濱……のり羊羹
同豐間……辨天羊羹
◎各種一本十錢
小川鄉驛前
製造發賣元　平屋賣店

精神病科　腦脊髓病科　神經病科

郡山驛より約三千米
内務省指定
福島縣立代用精神病院
郡山腦病院
郡山市外大槻村針生　電話九二五番
入院隨時　院長　醫學士　金森五郎

國はニッポン。魚は凍魚

日本水産特約
卸小賣平製氷會社
(電二三八・二三六)

タ　ヒ　甘　鯛
エ　ビ　マ　ナ　鰹
白　魚　帆立貝柱
ウニ貝燒

ヒラマル凍魚

平代理店　四丁目　魚問屋　電五二八番

配達ハ一尾一箱ヨリ迅速ニ致マス。

考査方針は昨春通り
試練の日を五旬後に
縣下男女中等學校長會議終る

縣下男女中等學校長會議は十日午前十時から縣廳會議室に開かれ、午後四時半まで熱心に協議を續けた

申告未だ六十餘
國民登錄趣旨徹底に
平紹介所大童

右は戰時下にもり澤吉事業の重要性が益々加つて來たに當り自給飼料の增產を期するを目的とするものに決定

自給飼料增產
協議會
廿二日平市で

平市並に石郡下の自給飼料增產協議會を來る二十二日平市內の各中等學校で開く

近く賣出し分共に
國債消化約四十萬圓
旺盛な市民の銃後熱

服裝に當分任意
小學校時代の儘で結構
制服問題に寬大な方針

理想鄉の建設に
氣負ふ三勇士！
「銃後教育」中堅講習會

陣中を慰問園に會ひ
大野村出身 久野政喜君(通信)

平の慰問團へ歸つた心もち
大野村出身 久野政喜君(通信)

玉屋眼鏡店

皮膚科 泌尿器科 性病科 專門
診療時間 午前八時ヨリ午後九時マデ
平市田町
江尻醫院
醫學博士 江尻伊三郎
電話六九一
入院隨意

酒は白菊
酒之王 君德 クント
平市田町
特約店 白菊廣瀨支店
電話五四番
秋田・伊藤本家吟釀

職工募集
家具指物職工數名
（初任日給壹圓五十錢ヨリ）
見習職工數名
（初給月拾五圓ヨリ）
家具、指物、飛行機木馬、神棚佛壇、建築材加工
橋本屋木工場
平市新川町
電六三番

吉田眼科醫院
醫學士 吉田久雄
平市緋屋町 電話六八番

實用新案 第一八七四三〇號 意匠登錄 第六六一六七號
石油式
石綿ムシカマド
こんな經濟的なかまどは他にありません
安價な燃料で濟み、保溫力が強く堅牢で火の元絕對安全！、御使用に御便利な！石綿製のムシカマド、近代生活のお台所に是非、たすゝめ致したい新製品で御座います。
平市五丁目
和洋銅物 金物問屋 釜屋商店

田毎のみつ豆
白蜜と黒蜜
フルーツポンチ
御志るこ
御そうに
田町 電632